

草刈作業の安全作業マニュアル作り ～ OSHMS 導入作業を通じた参加型安全衛生活動の推進 ～			
ガイドラインステップ		・OSHMS	・自主的活動
1～8・11・13～16	キーワード	・参加型安全衛生活動 ・リスクアセスメント	・安全作業マニュアル
改善・取組みの背景と課題	<p>地方自治体の〇市では、部署ごとに10の安全衛生委員会を設置し、年度ごとに策定する安全衛生計画に沿って安全衛生活動を行ってきたが、労働災害発生件数が年間60件程度で推移し、安全衛生活動方法の全般的な見直しが必要であると考えられた。そこで、安全衛生委員会で調査審議した結果、OSHMS(労働安全衛生マネジメントシステム)を導入することが決定され、外部の専門家の協力を得ながら、3年計画でOSHMS導入作業を進めた。</p> <p>第1ステップとして、10の安全衛生委員会関係者を対象に、OSHMS概要(基礎)研修を1回、OSHMS導入研修を4回にわたって実施。第2ステップとして、職場での自主的な安全衛生活動の定着を目指し、10の安全衛生委員会ごとにリスクアセスメント研修を実施した。第3ステップとして、部署(安全衛生委員会)ごとの課題を把握し、その課題を改善するための目標を設定し、リスクアセスメントを継続しながら、部署(安全衛生委員会)ごとに成果物をまとめた。また、全部署共通課題は、共同で作業した。</p>		
改善・取組みの着眼点	<p>各部署(安全衛生委員会)では、それぞれの職場のリスクに対応できる安全衛生対策ツールを、当事者が参加し、リスクアセスメントの考え方を取り入れながら、当事者自身の手で作成するとの方針で活動を進めることとした。しかし、中央安全衛生委員会で、草刈機による除草作業をする職員が増えていることから、共通課題として、草刈機による除草作業のリスクアセスメントを実施することが提案され、全職場の共通課題として共同で作業を進めることとなった。</p>		
改善・取組みの概要	<p>まず、草刈機を使用する23の職場から関係者35人を集めて、導入を進めているOSHMSやリスクアセスメントについて理解を深めた上で、草刈機による除草作業のリスクアセスメントを行った。実際に草刈機を使って作業内容等を確認した後、準備から作業、片付けまでの一連の作業段階ごとに作成したリスクアセスメント表を使い、ヒヤリ・ハット体験や作業しにくい点に着目しながらグループ討議で作業の中に潜むリスクとリスク対策をリストアップした。また、作業内容の確認では、作業に慣れている人はリスク対策が無意識のうちに実施されているので、作業に慣れていない初心者に模擬的に作業をしてもらいながら、リスクの把握を行った。</p> <p>その後、参加者から選出した9人のワーキングメンバーで、リスクアセスメントの結果をもとに、安全作業マニュアルの作成作業が進められた。</p>		

草刈作業のリスクアセスメント

慣れた作業者による取扱の説明 初心者による作業からリスクを把握



グループワーク

草刈作業RAワーキング

写真・図表・イラスト

表1 草刈作業の安全作業マニュアル作成までの作業経過

実施内容	日付	作業内容
リスクアセスメント	H21.7.31	近年刈払機による除草作業に従事する職員が増加しており、早急に安全対策を確立する必要があることから、中央安全衛生委員会でリスクアセスメントを実施した。 ・刈払機デモ作業後、各グループでリスクアセスメントを実施 ・ワーキングメンバー選出
ワーキング会議	H21.10.2 (第1回)	・安全作業マニュアル作成の進め方について協議
	H21.10.26 (第2回)	・優先順位の高いリスクをリストアップ ・草刈り作業の写真撮影
	H21.11.20 (第3回)	・安全作業マニュアル(案)作成 事務局作成の安全作業マニュアル(案)を、資料(共立刈払機の正しい使い方)を参考にしながら作業段階毎に加筆修正し、撮影が必要な写真について確認した。
	H21.12.17 (第4回)	・安全作業マニュアル(案)作成 第3回までの安全作業マニュアル(案)を確認し、メンバーやOSHMSプロジェクト会議の先生方からの意見及び資料を参考にしながら内容を検討し加筆修正した。
	H22.2.5 (第5回)	・安全作業マニュアル(案)の最終確認 第4回の会議後、内付けしてPワーポイントに変更した安全作業マニュアルVer1.0を、確認しながら加筆修正した。
説明会	H22.2.26	草刈機を使用する職員を対象にマニュアルの説明会と実演、質疑を行った。



安全作業マニュアルの表紙と説明会

効果

草刈機を使用する職員に集ってもらい、草刈機の搬出から、始業点検、草刈作業、終業点検、格納など作業ステージごとのリスクアセスメントを行った。また、燃料の取扱いや熱中症などの気象による影響、毛虫や蜂、蛇などへの対策など、実際の作業の中に潜むリスクを幅広く把握するように工夫した。このように、リスクアセスメントという新たな手法を使ったので、作業を多面的にとらえることができ、安全作業マニュアルに豊富なリスク対策を盛り込むことができた。

このGPSの経験から学ぶことができるポイント

全職場に共通する課題は、合同で作業を行った方が効率的である。不慣れた初心者の作業からリスクを把握する方法も有効であると思われた。このマニュアル自体は、作業者が常に携帯する必要があるとの意見が多いことから「草刈作業の安全作業マニュアル」(ポケット版)を作成したが、好評であった。

参考資料

1)渡辺裕晃, 甲田茂樹, 佐々木毅, 鶴田由紀子, 伊藤昭好, 原 邦夫, 堤 明純, 山口秀樹, 丸山正治: 自治体職場への OSHMS 導入 - 導入途上の状況と今後の展望 -, 労働安全衛生研究, 3(1), 11-16, 2010

投稿者

渡辺裕晃

e-mail

h-watanabe@city.omuta.lg.jp

2010年10月29日